

# Weekly report

MINKABU  
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都千代田区九段北1-8-10

## 今週の注目材料 = 金融システム不安の中、注目されるイベント

2023年3月27日

欧州や米国の金融機関動向を注視しながらの展開が続いています。10日のシリコンバレーバンク(SVB)破綻に端を発した今回の動きについては、市場が次の警戒先として意識し、株価が急落したファーストリパブリックバンクについて、大手行11行が支援する姿勢を示したことや、米金融当局が米国内の全預金を保護することを発表したことで、懸念が一時後退しました。また、SVB破綻の余波に加え、筆頭株主出会ったサウジ・ナショナル銀行から追加支援を否定されたことで経営危機への警戒感が一気に強まったスイスの金融大手クレディ・スイスについては、スイス国立銀行(中央銀行)が主導する形で、同国の金融大手UBSによる買収で合意し、欧州での金融機関への懸念についても、一服する展開となりました。24日のロンドン市場でドル円が直近安値を更新し、2月3日以来のドル安円高となる129円64銭を付けるなど、リスク警戒の動きが継続しています。

クレディ・スイスのUBSによる買収に際して、クレディ・スイスが発行していたAT1債(Additional Tier 1債)が無価値になるという措置をとったことで、他の金融機関の発行していたAT1債に大きな売り圧力がかかり、市場の混乱が見られることなどが背景になります。AT1債は通常の債券や劣後債に比べて金利が高い一方で、今回のように自己資本が減少した際に、原本の削減や、株式に強制転換されるリスクのある債券です。クレディ・スイスの発行していたAT1債は破綻の恐れなどにより例外的な政府支援が行われた場合に無価値になる規定がありましたので、その規定に沿ったという当局の主張です。ただ、AT1債といえども債券であり、株式よりは弁済順位が上位であるはずという原則が乱れたことで、市場の混乱が生じたものと見られます。

AT1債はリーマンショックの後に制定された金融機関の健全性を確保するための国際規制「バーゼル3」の下で、自己資本の基礎的な項目として認められることになったものです。その為、多くの金融機関が自己資本強化のためにAT1債を発行しています。このため、欧米を中心に金融機関への影響が懸念されている状況です。

金曜日はドイツの金融機関最大手ドイツ銀行の株価が一時15%も急落したことがリスク警戒のきっかけとなりました。フランスの金融大手ソシエテ・ジェネラルが9%安、英国の金融大手バークレイズが6%安と欧州を中心に金融機関への警戒感が続いています。今週もこうした欧米を中心とした金融機関のニュースや株価動向、債券市場動向などをにらみながらの展開となりそうです。

そうした中、注目を集めそうなイベントが28日23時(現地時間午前10時)より上院銀行委員会で行われる公聴会です。最近の破綻と連邦規制当局の対応について開かれるこの公聴会は、翌日の下院金融サービス委員会での公聴会を含め、複数回の実施が予定されています。28日の第1回では米連邦預金保険公社(FDIC)のグルーエンバーグ会長、米連邦準備理事会(FRB)のバー副議長(金融監督担当)、米財務省のラン国内金融担当次官の証言が予定されています。

同公聴会で当局による積極対応と、今後の混乱回避への姿勢が市場で評価されると、ドル買いの動きが期待される一方、厳しい状況が印象付けられるとドル売りが強まる可能性があります。

同公聴会に限らず、欧州、米国の金融機関関連のニュースなどには注意を払っておきたいところです。

経済指標関連では31日に発表される3月のユーロ圏消費者物価指数が注目されます。今月の理事会で0.50%の利上げを実施したECB。ただ、クレディ・スイス問題などを受けた金融システム不安もあり、今後は利上げ幅の縮小、打ち止めへの期待が強まっています。

す。そうした中、物価高が続くとECBとしてはかなり厳しいかじ取りが求められます。市場予想は前年比+7.1%と2月の+8.5%から大きく鈍化すると期待されています。エネルギー価格の落ち着きなどから十分にありうる数字です。予想通りもしくはそれ以上の伸び鈍化が見られると、今後の利上げ期待後退からのユーロ売りが期待されます。なお、前日30日には3月のドイツ消費者物価指数+7.3%と2月の8.7%から大きく伸び鈍化となっています。ユーロ圏の前にこちらで先に反応する可能性があります。

#### 山岡和雅 | MINKABU PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。